

		創刊号 2003年3月1日 発行 発行者 片桐 和喜 編集者 古山 陽夫 小石 秀二 E-メール pjf@nifty.com
	フィル・ジャパン・フレンドシップ	
発行所 フィル・ジャパン・フレンドシップ 新潟県北蒲原郡笹神村上高田659-1 TEL (0250) 62-1130 FAX (0250) 62-7067 ホームページ http://homepage3.nifty.com/pjf/		

理事長挨拶

理事長：片桐 和喜



理事長：片桐 和喜
(かたぎり かずよし)

去年の11月にマニラで行われた「マニラ理事会」に於いて、マニラ会新潟県支部の独立が認められました。これは、新潟県内だけに留めず全国に対して活動を広げる事と、より広くカウンターパートナーを持つこと

により、日比友好親善の活動を更に加速させることを目的としたものでした。

また同時に会の運営の明朗化と社会的な信用を得ることが目的として加えられ、12月26日の設立総会で会員の賛同を得て、ついに「NPO フィル・ジャパン・フレンドシップ (略称PJF)」として組織変更が行われ、1月にはNPO法人としての申請を県に提出する準備が開始されたのです。

2月10日に、ようやく新潟県より提出書類の受理がなされ、4月10日頃にはNPO法人としての承認が頂けようとしています。そして、ホームページの新規開設も終え、こうして皆様に新しい会の御紹介が出来る運びとなり、ようやくPJF創刊号発行にこぎ着けることが出来ました。8名の理事と2名の監査役が就任し、今後も活動を

活発にして、会員と共に日比友好親善を更に進めていきたいと願う次第です。

未だにフィリピンに対する日本人の印象は、決して良い物ではありません。しかし、その印象は実際と違う事に気づいていない日本人が多いのです。この国を正しく理解して欲しいと思います。それは、例えば日本が抱える高齢化社会問題と、若者があふれているフィリピンが相互理解を深める事で、両国の抱えるそれぞれの問題が解決する糸口になるかもしれません。今後の日本の将来に於いても日比友好親善を進めるのも方法の一つと考えます。また、日本国内に婚姻居住や出稼ぎに來ているフィリピンの方々が多くいますが、その中には労働条件の制限や売春を強要されている例もあります。

PJFは、全てを解決することは出来なくとも、フィリピン関連の専門的団体として今まで得た知識と友好関係により、転ばぬ先の杖としてのお手伝いや、相談事の受付が出来る唯一の団体であると確信しています。今後も他の団体と協力体制を拡充し、日比友好親善を目的とするいろいろな事業を立案・実行していく所存です。今後とも会員皆様と共に全国から認めていただけるような会に育てていきたいと決意し、理事長就任の挨拶とさせていただきます。

御祝いの言葉

日比親善同友会 会長 大澤 一郎 氏

今回、新たに発足となりました貴フィル・ジャパン・フレンドシップ理事長 片桐和喜氏と小生は、4年前にお会いした時から現在に至るまでの間、そのボランティア活動の中で人に語れない紆余曲折の連続体験を経てその都度”壁”にぶつかり、怒り、失望し、悲しみの中からもその都度活路を見いだせた事が、この新たな門出へと繋がってきたと確信しており、あらためて心から御祝いを申し上げたいと存じます。

今や貴会の皆様が何をどう進められようとしているかが良く内外に理解され、地元新潟県のみならず近県にその活発な協力・支援活動の輪が広がりを見せるようになって、従来のか・殻から脱却し、大きくはばたくその時期に到達されました事、

貴フィル・ジャパン・フレンドシップの皆様を持ち味である”ねばり強さ”、そして、その強い意気込みと勇氣にあらためて敬意を表すると共に、当会の総力を持って貴会の当地における支



会長：大澤 一郎氏

えになられるよう努力して参る所存あり、更には近き将来、貴会理事長 片桐和喜氏、各役員の方々、また、会員の方々共々更なる発展を成し、日本・フィリピン両国国民に無くてはならない存在に成し得ます様、NPO フィル・ジャパン・フレンドシップの発展を祈願し御祝いの言葉とさせていただきます。

日比親善同友会 会長 大澤 一郎、理事、会員一同

こんなうれしいお便りとお返事が来ました

こんにちは。
日々の御活動、ご苦勞様です。
古着をどちらかで使っていただきたいと思い、送付させていただきます。
現地までの送り賃等、必要であれば改めてお手伝いさせていただきます。思っております。
宜しくお願い致します。

東京都江東区 尾上 美和

と言ううれしいお便りと沢山の古着を送って頂きお礼のメールを送ったら次のようなメールを頂きました。

片桐様・みなみなさま
わざわざ 早速のお便り、ありがとうございます。
ホームページで拝見し、この情報は本当にア

水原消防 波多野です。
あけましておめでとうございます。ちょっと遅いですがね!
メールアドレス変えましたのでメールはしました、また何かありましたら連絡ください。新しいホームページ見させていただきました、僕もよく写っていましたありがとうございます。

東京都江東区 尾上 美和

ップデートされているのか?
もしかしたら 今は受付ておらずにもどってくるかもしれない…。とも思いながら送らせて頂いた荷物だったので無事届き、お受け取り頂いた事を知り、嬉しく思いました。

また、サイトによっては新品のみ受付などと書いてあり、はたしてこれが困っている方々の元に行くのか?とも思ってしまうサイトがあったのですが、片桐様のところはそのような雰囲気もなく、地元の方々と一生懸命ご活動の様子が伺いできましたので、今回 片桐様の所に送らせていただきました。

全国から届くこのような荷物の作業も大変かと思いますがありがとうございます。

フィル・ジャパン・フレンドシップのご活動されている事は非常にすばらしいことと思います。これからも益々がんばってください。出来る範囲で私もお手伝いできたらと思っております。

この他にも、電話での問い合わせが全国から寄せられています。心優しい人が多いことに、事務局はうれしさを感じています。この人達の「まごころ」を届けなければなりません。この費用をどこから集めようかと思っております。ホームページなどでも呼びかけの記事を載せたいと思っております。

消防車・救急車ドネーション (第2回目 完了)

昨年消防車・救急車寄贈受託事業について「マニラ邦人会」様と「日比親善同友会」様が各会の会報でこの事業を大きく取り扱って下さいましたので「P. J. F」会報創刊号にあたり、「マニラ邦人会」様の記事を使わせて頂きます。

地元や日本のテレビ・新聞でも報じられたが「マニラ邦人会」の関口理事が本事業の一翼を担っていた関係で、当会報取材班も再三同行した。新聞テレビで報道されなかった一面も含めてご紹介いたします。

「マニラ邦人会」会報より抜粋
◇新潟県ライオンズクラブとフィリピン関係者による努力で昨年初めて成功させたこの事業が、今年も多くの障害と困難を克服してこれを実現させた。
贈呈式には日本大使館江川公使、竹内領事、日航マニラ社長 久保氏、佐川急便副社長 松本氏、リナ総務自治長官、マラカニアン大統領府報道官、モンテルパ市長フレスネディ氏、総務局長レイエス氏、日本から吉田昭英氏以下15名の新潟ライオンズクラブ代表者及び消防団代表者の出席を得て11月18日、モンテルパ市にて開催された。この模様は

◇人が成し得なかったことを成功させ、後に続く人達のために道を開くことを「道づけ」という。

今までに何十もの個人又は組織が試みて一度も実現しなかったのが現実である。実際に今年も静岡県某ライオンズクラブがこの種の事業を手がけたが、各種の難関に直面して結局成功しなかったという情報も入っている。

「日比友好の父」とも言える在比歴70年余の故大澤清氏でさえ「3度アタックしたがいずれも成功に至らなかった」というこの事業を、子

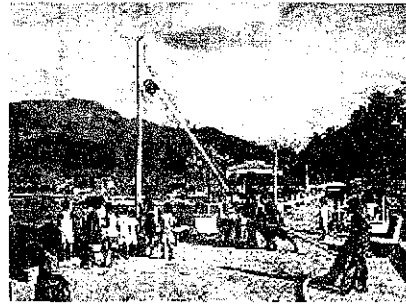


息の大澤一郎氏と関口宗一郎氏（プロジェクトコーディネーター [マニラ邦人会理事]）、日本側において片桐和喜氏（プロジェクトマネージャー [当会理事長]）共に、新潟県のライオンズクラブを中心とした12のライオライオンズクラブ、各地の消防署、日比における関係省庁、各機関の協力を得て成功させた、まさに「道づけ」といえる事業だった。日本側ではプロジェクトマネージャーの片桐氏と事業主体のライオンズクラブの皆さんが車両収集から資金調達、会議に次ぐ会議、各関係機関手続き、港への陸送、積み出し作業。本業に手を出している暇がない程の忙しさで精力的に活動した。一方フィリピン側では、大澤氏が関口氏と協力して各関係機関トップクラスとのコンネクションをフルに生かして、それでも次から次と出でくる障害や困難を根気強くクリアーして受け入れ準備を整えていた。この間に交わした各連絡のFAX・文章は、分厚い電話

帳以上になると言う。贈呈式当日、まず午前8時からモンテンプルバ市役所前広場で日本から来られた代表者の歓迎式が催され、続いて市長室では朝食の後ステンカーデンに移動した。会場には日の丸の小旗を手に400人からの小学生も参列。一斉に旗を振り、声を揃えて「オハヨーゴザイマス」を繰り返した。外国で見る「日の丸」の旗の波は胸にジンとくるものがある。腕を組み俯いて座ったまま上目でこれをジッと見つめていた片桐氏の胸の中は、この1年間の苦労を思い、今日の喜びをかみしめている様に見えた。

そうしている間にもプログラムでは、来賓の紹介に続いて両国に於いてこの事業に携わった方々一人一人が紹介され、出席者から拍手を受けていた。

寄贈先	寄贈内容	数	提供先
1 メトロマニラ・モンテンプルバ市	救急車 (トヨタ)	1	新発田地域広域消防
2 同上	消防車 (いすゞ)	1	新潟市消防本部
3 ラグナ州サンタローサ市	救急車 (ニッサン)	1	南佐渡消防本部
4 同上	消防車 (トヨタ)	1	豊栄消防本部
5 ネバシハ州ボンガボン	救急車 (トヨタ)	1	豊栄消防本部
6 ブルカン州サンタマリア市	消防車 (ニッサン)	1	南佐渡消防本部
7 ブルカン州サンホセデルモンテ市	消防車 (日野)	1	新潟市消防本部
8 ブルカン州マロロス町	消防車 (トヨタ)	1	豊栄市消防本部
9 アルバイ州レガスピ市	消防車 (トヨタ)	1	五泉市消防本部
10 同上	搬送車 (ニッサン)	1	五泉市消防本部
11 サマール州スマラガ	可搬式ポンプ車	6	岩船地域各消防団、五泉消防署
ライオンズクラブ国際協会	LCIF基金提供		新潟県国際交流協会
水原消防本部職員 関川淳一 波多野安男	現地技術指導		事業費支援
第四銀行豊栄支店他6支店	古着の提供		日比親善同友会
フィル・ジャパン・フレンドシップ	調整・申請業務		比国側調整・申請
フィリピン政府大統領府	事業支援		(株)タカラ自動車
モンテンプルバライオンズクラブ	事業支援		車両修理
佐川急便フィリピン(株)	輸送業務		(株)大蔵建設
			子供服の提供
			日本大使館、領事館
			事業支援
			モンテンプルバ市警察
			警護
			日本航空マニラ支店
			輸送業務



農業技術支援事業（継続中）

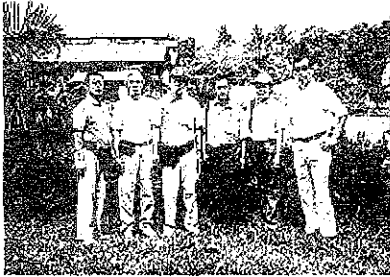
焼き畑農法が主流のフィリピン。化学肥料を大量に使用した事で、耕作地の地力が衰え、病害虫駆除に使用されている有害化合物により、奇形児の出生が増えている。また、家畜の糞尿がたれ流し状態にあり、住民の生活環境は悪化し、蚊やハエの大量発生により伝染病などで死亡する住民も多い。この状況を改善するために、フィル・ジャパン・フレンドシップが日本国内で支援提案したところ、焼き捨てられている稲ワラや籾殻、そして、たれ流し状態にある家畜の糞尿を利用して、

有機肥料を作ることで、化学肥料からの脱却を計り、安全な食料の自給と、生活環境の改善を図るべく、笹神村の有志が「フィリピン農業技術支援委員会」を発足させ、自費にてその活動を続けています。



しかし、自費にての支援には限界があり、フィル・ジャパン・フレンドシップは、昨年10月初頭にこれをJICA(国際協力事業団)に事業申請しました。その事を知り、笹神村農業技術支援委員会は、今年1月にもう一度、自費にての現地指導をし、ラグナ州農業試験場の農地を利用して、自分たちが教えてきた有機肥料を使った栽培がどのように推移しているかを確認し、追加指

導を行ってくれました。そして、ついにこの事業は仮採択され、JICAによって現地視察が3月に行われます。この連絡を受けフィル・ジャパン・フレンドシップは、JICA職員に同行し、現地を案内することになりました。この事業のカウンターパートナーとして、日比親善同友会が協力して下さることになりました。既に片桐理事長と大澤 一郎会長との間で事業会議が進んでいます。



大澤会長と農業技術支援委員会



手前が有機肥料を使った試験圃



生育の違いを確認した。

フィリピン・インサイド・ニュース

◆NGO支援

JICAが日系NGO支援の専門部署開設へ。無駄のない援助の形態探る。

国際協力事業団(JICA)フィリピン事務所は今年四月、日本の非政府団体(NGO)支援のための専任部門「NGO・JICAジャパンデスク」を正式開設する。二〇〇三年十月一日付で独立行政法人化されるのに伴い、市民レベルでの国際協力事業を推進し、NGOや非営利団体(NPO)との連携を強化していくことになった。フィリピンで日本のNGOが活動するうえで必要となる情報を提供するほか、援助を受ける現地NGOの要求を十分にくみ取った援助事業の展開を目指す。

◆バスに警察官

交通警察官の罰金まきあげを防止するため、国家警察が警官を同乗させる

◆警官に口臭と歯の欠損対策求める

マカティ市のビナイ市長はこのほど、同市のビジネス地区に配置される警官に口臭と歯の欠損対策を指示した。外交官や観光客に好印象を与え、信頼を得るのが狙い。同市長は特にアヤラセンターに配置される警官に対策を厳命。「第一印象が重要。服装だけでなく、衛生面も意識しなければいけない。歯がなかったり、口臭がにおうと嫌われる」と強調している。フィリピンでは金のネックレスや指輪を付けて私服で勤務するなど、個性的な身なりの警官も多い。

事務局からのお知らせ

会員証を発行するにあたり、25mmx25mmのサイズの写真を2枚御用意頂き、1枚をご面倒ですが3月15日必着で事務局までお送り下さい。

写真が届き次第、I.Dカードをお送り致しますので、残りの1枚を貼り付けてご使用下さい。

会費納入者

田中 政樹 様・・・2004年2月分まで
吉田 昭英 様・・・2004年2月分まで

編集後記

大変、長らくお待たせしました。ようやく第1号が発行できました。まだ記事が少なく物足りないと思いますが、これから色々な事業が始まりますので、今後に期待してください。また、会報を充実させる為に、皆様からのご意見・要望・情報等の提供をお待ちしています。

事務局長 古山 陽夫

PJF理事・役員の紹介

理事長	片桐 和喜	理事	石川 恒夫
副理事長	佐藤十九一	理事	田中 政樹
副理事長	佐久間敏昭	事務局長	古山 陽夫
幹事	小石 秀二	監事	田村 謙右
会計	村山 匡	監事	堀 邦彦

新入会員紹介

加藤 正宏 様・・・2003年1月 入会
(現在会員総数27名)

P. J. F 事務局

〒959-1973 新潟県北蒲原郡笹神村高田659-1

(有)片桐配管工業内

Tel:0250-62-1130 Fax:0250-62-7067

E-mail: pjf@nifty.com

H.P: http://homepage3.nifty.com/pjf

振込先

口座名義: P. J. F 代表 片桐 和喜

口座番号: 367474 (普通口座)

北越銀行水原支店

日比親善同友会

創刊号
PHILIPPINE-JAPAN FRIENDSHIP & CAMARADERIE ASSOCIATION, INC.

発行所 日比親善同友会 Rm.202 Dona Generosa Bldg. 282 EDSA Extn.Pasay City TEL.851-7328 fax.891-7679
発行者 大澤一郎 編集者 小林慎治 村山武史 山口暁一
印刷所 SONY PRINTING PRESS 2323 Florante St. Pandacan, Manila TEL.563-9275 FAX.563-9236

「日比親善同友会」創立のご挨拶

会長 大澤一郎



昨年日本でも米国においても政財界、企業の倫理観念に問題が多出して、辞任、株価の下落、企業崩壊等がその結果として見られましたが、一度このような問題を引き起こしますと再起は不可能になるのが社会一般の通念と認識を

新たにさせられた年でありました。特に又、親善・慈善事業に携わる私どもの活動は、日常の生活態度からその事業の一つ一つの進め方について、絶えず厳しい目が注がれていることに注意しなくてはなりません。今回、図らずも、新しいNPO団体結成に至り「日比親善同友会」を組織してその初代会長に有志一同の推挙を得まして、その大任を果たすべく準備を進めて参りました小生としましては、ここで改めてその任務の重大さを認識している次第です。

亡父、大澤清の命日をこの1月10日に迎えました。それと時を同じくして、新たなNPOを立ち上げることになりましたことは、亡父と小生の生まれたときからしてこのようにあるべきだったとする何か因縁のようなものさえも感じさせられます。

亡父、大澤清が小生に宛てた電文：「男子、35歳、決断の秋、我ら南方民族と共に栄えんことを誓わんとす。清」は、当時、M商社東京本社業務本部海外統括部アジア課にてフィリピン担当として勤務していた小生のみならず、同社マニラ支店長、海外統括部長以下の皆さんを驚かせ、そして再三の依頼退職を思いとどまるべく、小生の説得に努力して下さった親切な方々のお顔は今でも鮮明に思い出されます。これらの方々が真剣に小生の退職願いを思いとどませようとされたのは、その2年前に亡父が設立した船舶代理店業が芳しくなく、すでに巨額の赤字を出しており、銀行預金は車一台購入する金もないありさまであること、また、彼が2年前に独立させた商事会社は倒産して既に半年経過しており、給与未払いの社員4名がまだそのまま残って事務をしていることなど、そんな環境の中へ飛び込んで

”自殺行為”と思われたのも当然であります。

どうしても小生が退職の決意を変えないのを見た当時の同社海外統括部長は、一橋大同期で親交のあったN船社専務（後に社長に昇進）をダイヤモンドホテルに招かれて昼食を共にしながら小生を紹介し、”後は宜しく頼む”とわざわざ後押しを頼んで下さったご恩は忘れられません。況して「会社再建」という切羽詰まった環境へ、海外経験のない妻と生後間もない長女を含む幼児2名を抱え、しかも英語も話せない不安の中で、全く未経験の船舶業界へ飛び込みそして始まった苦労は小生のみではなく、同行した家族にとっては小生以上の苦労が及びました。幸いにも3年で2社とも再建を成し、その5年後には立派に活動出来る状態に回復しました。この成功は、ラ・サール大学同期生の支援、そしてM商社海外統括部長やN船社専務の暖かいご理解とご協力があったからこそであります。つまり、組織内に真の”同志”を持てれば”我慢、辛抱”も出来、そして”成功”出来るという体験です。

今回、この新たなNPO設立には”志を同じくする者達”つまり”同志”が集まって、その目的を遂行したいとする者達のみが集まっております。そこでこの会の名称を「同友会」とさせて頂きました。

お祝いのメッセージ

マニラ邦人会会長 宇野新八

「日比親善同友会」創立おめでとうございます。大澤清氏の遺志を継ぎ設立されたものと思いますが遅きに失した感がしています。私も追悼番組を見て少なからず刺激を受けていました。早い時期に旗揚げされると期待していましたが、察するに11月に実施されたドネーション事業を優先しておられたためと思われます。当「マニラ邦人会」とは目指すところが違いますが「真面目な親睦会」を育成するという思いは同じです。従ってイベントなどでジョイント出来る機会があれば協力して親睦会同士仲良くやっ行って行きたいと願っています。

「日比親善同友会」インフォメーション

◇「日比親善同友会」創立の経緯

2002年1月、ウィンズより、日比友好の祖、大澤清氏の追悼番組が放映された。大澤清氏最後のテレビ出演となったインタビューで「フィリピンと日本の架け橋となる、真の友好親睦・ボランティア組織」を誰かが創ることを熱望し、切実に訴えておられた言葉をまだ覚えている方も多いと思います。その言葉の意味が何を示すかは別として、自分の子息に「おまえがそれを創ればよい」と常々言われていたが、そのとき本人にはまだその気がなかった。しかし、大澤清氏が故人となられたことにより、本気でそのことを考えはじめた。それでも当初の間は「既存の会で」との思いが強かった。

それとは別に、当地で会社を営む藤堂氏は、先の追悼番組を見て「・・・そういう会を創ってほしい」と言われた言葉に同じ思いを抱いたが、同時に、自分が創設した既存の会があるにも関わらず、何故、敢えてマスコミを通してまでそういうことを言われるのかを深く考えた。大澤清氏を尊敬していた同氏は、そんな会を創るためならば出来る限り協力したいという熱意をもって機会ある度に友人達とそれを話題にしていた。ところが、大澤・藤堂両氏はお互いの存在こそ知っていたものの交友はなく、昨年後半、共通の友人を介して親交をもつようになった。そしてこれを機に両氏を信頼する友人達が集まり、意見を重ね、交換する中で、故大澤清氏の熱望していた「真の日比友好に寄与するボランティア団体」が必要。ということで全員の意見が一致するに至り「親睦友好団体」設立に向けての機運が高まった。昨年10月、代表の大澤一郎が別用件で、ウィンズチャンネルに招かれ、番組「曼陀羅」に出演した際ホストの水島監督から計らずも「ニューリーダー」という言葉を聞いたことは記憶に新しいが、当時、大澤は昨年に続き2年目となる「人命救助」に関するボランティア事業「消防車・救急車ドネーション贈呈式」を目前に控え、それに集中していたため、「会設立」は12月以降とした。この間、藤堂氏を中心にして「会」設立を具体化させ、11月30日に第1回発起人会開催の運びとなった。

なお、先(10月)に設立された「マニラ邦人会」会長の宇野新八氏とは話し合いの場を設け、「会」発展に対する考えや目標、方針は違うが「親睦会」として不透明・不鮮明な部分のないクリーンな会を作る点において一致している。従ってイベント等でジョイントしてやって行ける場所ではお互い協力して行くことで話がまとまっている。また、将来的には事務所も一つに構える話が進められている。

◇「親睦会」としての活動

月例会。理事会、クラブ活動、情報交換、事故事例及び教訓となることの情報提供、各種イベントの企画実行、会報の発行、その他。

◇「日比親善同友会」の目的

1. 真のボランティア精神を維持し、フィリピンの国民との友好を深め、ともに相互理解とその支援活動に積極的にさんかする。
2. 会員間の真摯で友好的な関係を推進し、互いに共通する問題の解決と福祉の増進を図る。

◇「当会の運営」

1. 日比友好につなげる意味でも、会員は国籍を問わず、フィリピンの人達にも参加していただき、同じ立場において意見を交換、各種事業をともに企画、実施する中で、文化の交流、習慣の違いなどを理解し、よりよい関係と親睦を向上させる。
2. 友好の架け橋となるボランティア団体として、日本各地のNPO支援センターと交流を持ち、合流会議などを経て、各種事業に当る。
3. 後から来られる日本人の方々が安心して身を寄せることが出来る、真面目で風通しの良い親睦会とし、いずれは子弟に対する日本語の指導も行う。

※ これを成すためには、まず、同志諸君の姿勢をあらためて見直していただき、襟を正してこの会の発足を祝いたいと思います。また、この志を同じくする方、そして、ご自分の経験、知識等を生かせる方の参集を強く求めます。

◇「運営資金」について

正会員・賛助会員の会費及び寄付。また、各種の事業により得た収入金の一部をこれに充てる。収入については、その全てを会報に掲載することにより納入者への確認手段と関係者に対する報告とする。

◇「事業」について

既に実施している事業、将来予定している事業他あるが具体的な内容は次号以降に掲載。取り敢えず現在行っている、また進めていることの項目と概要。

- 1 人命救助事業(3年目)。消防車および救急車の地方自治体への無償提供。新潟県ライオンズクラブ以下群馬・福井・長野県の35クラブ協力。
- 2 環境改善支援(昨年接触)。ゴミ収集車の寄贈。東京のロータリークラブ中、27クラブが賛同
- 3 農業技術支援事業。(1999年から試験実施)新潟県北蒲原郡の「有機肥料センター」関係者協力によるプロジェクト。1月中旬 専門家来比

入会案内

- ◇ 正会員 1ヵ月 P.500 入会金 P.500
6ヶ月または1年単位で払い込み
2名の紹介者が必要
- ◇ 賛助会員 年間(1年毎)会費2万円
ペソ払い込みの場合は時価レート
- ◇ 受け付け 事務局

「日比親善同友会」創立、理事役員ご挨拶



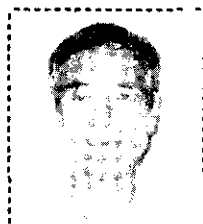
副会長 小林慎治

月並みですが、月日の過つのは本
当に早く、当地に来てからもう14
年にもなります。初めに会ったカル
チャーショックにもめげず、ひた
すら働き、数年前よりやっと引退生
活を送っています。最近フィリピン女性との結婚を
望む人や、この国にてビジネスを考える人からよく
アドバイスを求められますが、話を聞く限り考えの
甘さを多分に感じます。先ず外国での生活に対する
基本的な心構えからアドバイスしている所です。私
個人は、以前から、親睦会に入り交友の輪を広げ、
遅まきながらフィリピン生活をエンジョイして行き
たい。また、同時に少しでも人の役に立つことが出
来ればと思っていましたところ、この度、新しい会
設立の話聞き、入会した次第です。いきなり副会
長など指名され、正直いいまして困っているところ
ですが、先ずは誠心誠意頑張るつもりです。よろ
しくご協力下さいますようお願い致します。



理事 藤堂藤吾

2003年初春に、日比友好の祖、
大澤先生の遺志を受け継ぐべく真の
日比交流の掛け橋となる使命をもつ
た「日比親善同友会」が旗揚げされ
その末席に加えられたことを重く受
け止め、理事職の任務を全う致す所存でございます。
会長始め発起人全員が「誰でも、誰とでも」気軽に交
流できる風通しの良い親睦会をつくることに賛同し、
旗揚げに至った次第ですが、日本国内「NPO/民間
非営利団体」と積極的に交流し、フィリピン側の受け
皿となる使命を持ったボランティア団体として、フィ
リピン政府中枢にも協賛いただくことを視野に入れた
「有意義な団体」に発展させる目標を掲げております。
当会は、日比両国民が心を併せて運営する「広域混合
ボランティア組織」が特徴です。会の趣旨に賛同いた
だく個人・団体を国籍を問わず公募し、英文会則の配
布も実施する先進性も特徴としていることを申し上げ
ましてご挨拶と致します。



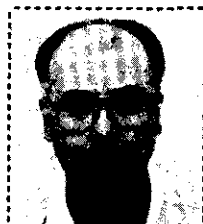
理事 村山武史

フィリピンと関わるようになって
26年、仕事を辞めるようになって
からこの国に移住することを考えてい
た。1989年に移住してから、暫く
してマニラ会の会報を見て、こうい
う会があるならと、入会して協力してきた。しかし
組織の運営に疑問を持つようになり、自分が考えて
いた、この国の人達と一緒に何か自分の出来るボラ
ンティア活動があるはずだ。そういうNPOの団体
が出来れば、と考えてきたところ、大澤氏と何人か
の同志が発起人となって、日比親善同友会を発足さ
せることが出来た。今まで自分の考えていた組織が
活動を始めるのだ。やりがいも有ろうが苦労もある
ことと思う。私は既に古希を過ぎている。だが体だ
けは健康で、今まで病氣らしいものをしたことがな
いのが幸いで、まだ頑張れると思うが、健康を維持
するための生活習慣をこれからも続けていくつもり
です。自分の出来ることをマイペースでやらせてい
ただきます。



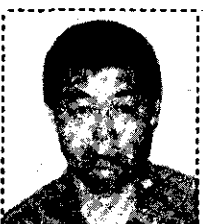
理事 関口宗一郎

当会の会長になりました大澤一郎
氏と、以前話し合ったことがありま
した。「初めてフィリピンに来る日本
人が安心して頼れる会が欲しいです
ね。その会で様々な事業が出来ると
良いですね」。同じ思いを抱いている方達がこの国に
たくさんおられると聞いていました。そんな方達が
大澤氏の周りに集まり始め、この度「日比親善同友会」
が発足致しました。
我々の理念は当たり前は無理なくボランティアをや
って行こうと云うことです。そして「親睦会」の基本
として、人を騙すことなく、人を誹謗中傷することな
く、互いに持ちつ持たれつ仲良く助け合っていきたい。
また、理不尽な事に対してはどこにでもきちん物を
申せる、常識と良識がおおる会でありフィリピン社会
にも通じるきちんとした会が出来れば良いと考えてい
ます。さて、どこまで我々の会が思い描いたとおりに
出来るか判りませんが、理想は高く持ち、しかし地道
にやっっていこうと思ひます。



理事 福田国治

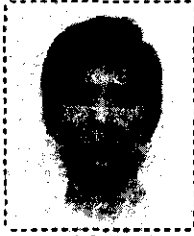
私もフィリピンに来て5年になり
ます。その間、娘を学校へ送り迎え
するだけが毎日の主な任務だったよ
うな気がします。この度、縁あって
「日比親善同友会」に参加させてい
ただくことにまりましたが、はたして私に何が出来る
かわかりません。会の趣旨目的に沿えるよう私なり
に出来ることをやっっていくしかないとおもって
います。先輩の皆様方どうかよろしくご指導下さい
ますようお願い致します。



理事 今関和彦

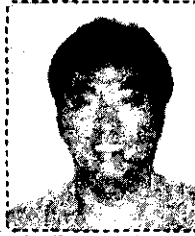
フィリピンにきてやっつと2年です。
思えばこの国に来て本当に良かったと
いえる日々を過ごしております。心も
体もリフレッシュ、日本にいたときの
私と今の私、まるで別人のようです。
フィリピンの環境が自分に合っているからでしょう。
この地に根を根をおろし頑張っていくしかないように
思います。この先もお世話になるフィリピンに、私一
人では何も出来ませんが仲間が力を合わせれば出来る
ことはたくさんあると思ひます。頑張ります。

「日比親善同友会」創立、理事役員ご挨拶



事務局 山口陽一

大小親睦会、数あるこのマニラにまた一つ新しい会が出来てしまいました。すみません。設立目的は案内に掲載されたとおりでありますが最初から目覚ましい活動など出来る訳がありません。先ず、実行出来ることは「地域社会や人に迷惑・害を及ぼさない会員であること」として皆の意見が一致しています。自分はリタイアメントです。現役中から現在に至るまで一貫して、俺は将棋で言えば「歩」囲碁なら「捨て石」のようなものと自覚しています。卑屈な気持ではなく自信を持って。自分をごまかさずに見つめていれば自分のレベルくらい分るもんです。無理な背伸びやコネを利用して実力以上の立場を得ても、仕事上で周囲に迷惑かける例はよくあります。なんぼ背伸びをしても肩をいからせてみても歩は歩です。ただ、歩でも捨て石でも良き指揮官に仕えれば戦局を左右するほどの働きが出来ることも知っています。上手に使って下さればお役に立てるかもわかりません。



発足のお祝い

フィル・ジャパン フレンドシップ (Phil Japan friendship)

理事長 片桐和喜 理事・会員一同

「日比親善同友会」の発足をお慶び申し上げ、貴会のご発展を心より祈念致しますと共に、大澤一郎氏の会長御就任をお祝い申し上げます。また、理事をはじめとする会員皆さま方のご活躍を期待するとともに、貴会の日比友好親善活動の一部に、当会もパートナーとして一緒にできることを嬉しく思う次第です。今まで以上の活躍が期待される中、大澤会長であれば必ずや両国から寄せられる期待以上に活躍されることと存じます。当会も内容をますます充実させ、貴会とともに両国から認められる友好親善活動を高めて行きたいと思ひます。これからは多くの団体が力を合わせることで、より大きな、そしてより必要とされる日比の架け橋となれるよう、我々も微力ながら尽力いたします。

貴会のご発展とご活躍を御祈念申し上げまして一言ご挨拶とさせていただきます。

消防車・救急車ドネーション

昨年、会設立準備中の11月、既に消防車・救急車贈呈式を成功させていた。この模様は新聞テレビ等で報道されたが当地の親睦会「マニラ邦人会」が会報の新年号でこれを大きく扱って下さっていた。「日比親善同友会」会報創刊号発刊にあたり、その記事を使わせて戴きます。

(マニラ邦人会)会報より

◇ 新潟県ライオンズクラブとフィリピン側関係者による努力で昨年初めて成功させたこの事業、今年も多くの障害と困難を克服してこれを実現させた。

贈呈式には日本大使館江川公使、竹内領事、日航マニラ社長久保氏、佐川急便副社長松本氏、リナ総務自治長官、マラカニアン大統領府報道官、モンテルパ市長フレスネディ氏、総務局長レイエス氏、日本から吉田昭英氏以下15名の新潟県ライオンズクラブ代表者及び消防団代表者の出席を得て11月18日、モンテルパ市において開催された。この模様は地元や日本のテレビ・新聞でも報じられたが

「マニラ邦人会」の関口理事が本事業の一翼を担っていた関係で、当会報取材班も再三同行した。新聞テレビで報道されなかった一面も含めて御紹介致します。

◇ 人が成し得なかったことを成功させ、後に続く人達のために道を開くことを「道づけ」という。今迄に何十もの個人または組織が試みて一度も実現しなかったのが現実である。実際に今年も静岡県某ライオンズクラブがこの種事業を手掛けたが、各種の難関に直面して結局成功しなかったという情報も入っている。

「日比友好の父」とも言える在比暦70年余の故大澤清氏でさえ「3度アタックしたがいずれも成功に至らなかった」というこの事業を、子息の一郎氏と関口宗一郎氏(プロジェクトコーディネーター[マニラ邦人会理事])、日本側において片桐和喜氏(プロジェクトマネージャー)と共に、新潟県のライオンズクラブを中心とした12のライオンズクラブ、各地の消防署、日比における関係省庁、各機関の協力を得て成功させた、まさに「道づけ」といえる事業だった。次頁へ



スービック港にて、次々と陸揚げされる消防車・救急車。



バレンズエラ市、一時保管倉庫で部品および付属品の仕分け作業。



日の丸の小旗を手に、贈呈式場へ入る約400人からの小学生。

◇ 昨年の贈呈式で主賓席に招待された大澤清氏「僕は日比友好のため、フィリピンのために本当にこれがやりたかたんだ。」と言って日頃から褒めたことがなかった一郎氏を頼もしげに見ていた小さな目が印象的だった。今年は昨年6台(消防車5台・救急車1台)から10台(消防車6台救急車3台・輸送車1台)に増え、更に手動ポンプ車も6台加えモンテンルパを始めとする9個市町村に贈られた。

◇ 日本側ではプロジェクトマネージャーの片桐氏とライオンズクラブの皆さんが車集めから資金集め、会議に次ぐ会議、各関係機関手続き、港への輸送、積み出し作業。本業に手を出している間がない程の忙しさで精力的に活動した。一方フィリピン側では大澤氏が関口氏と協力して各関係機関トップクラスとのコネクションをフルに生かして、それでも次から次と出てくる障害や困難を根気強くクリアして受入れ準備を整えていた。この間に交わした連絡のFAX・文書は分厚い電話帳以上になるという。

◇ 大澤氏「自分の仕事が出来なくて会社が危機に陥っている。しかしこの事業にはお互いの国の公的機関も絡んでいるので投げ出す訳にはいかない、仕方がない」と言い、またコーディネーターの関口氏は、昨年寄贈した消防車・救急車についてこの1年間の活動を記録した「活動状況報告書」を翻訳した結果、実際に何人もの生命を救い、財産を守った現実を確認して、気負うことなく素直な気持ちで「俺達良いことをしたんだなあと思えます。」と言っていた。

◇ 贈呈式当日。先ず午前8時からモンテンルパ市役所前広場で日本から来られた代表者の歓迎式が催され、続いて市長室で朝食の後サンケンガーデンに移動した。会場には日の丸の小旗を手に400人からの小学生も参列。一斉に旗を振り、声を揃えて「オハヨーゴザイマス」を繰り返した。外国で見る「日の丸」の旗の波は胸にジンとくるものがある。腕を組み、俯いて座ったまま目でこれをジッと見つめていた片桐氏の胸の中は、この1年間の苦労を思い、今日の喜びを噛み締めているように見えた。

そうしている間にもプログラムでは、来賓の紹介につづいて両国においてこの事業に携わった方々一人一人が紹介され、出席者から拍手を受けていた。

◇ 今回の事業で一助かったこと。

モンテンルパ市の総務局長レイエス氏が率いるチームの仕事振りが凄いと聞いた。ジャパンスタイルを凌ぐ「分単位」の仕事が行われ、逆に「何分までにこの返事を下さい。」と時間指定まで受ける場面も度々。このため仕事の見極めが付き、計画を立てて進めることが出来たので気分が良かったという。

◇ 反面、一番困ったこと。

陸揚げした車のハンドル付替え、その他の費用について、関係者から昨年の3倍以上の見積り額を示されたという。ライオンズの皆さんが汗と足で精一杯めた資金が必要経費の3分の1にも満たないとあつて愕然とした。このままだと120万ペソも足りないことになってしまう、そんな馬鹿なことがあるはずはない。ボランティアに協賛といいながらその精神のかけらも見られぬ要求に対し、全員一致でその関係者を排除。軌道修正を行ない、別ルートの業者を探し出し昨年並みの費用で無事に事業を進めることが出来た。

◇ 今回のドネーション事業にご協力された方達

日本側 333A地区ライオンズクラブLCIF事業推進委員会(委員長吉田昭英氏)。

新潟県各ライオンズクラブ:水原・豊栄・新潟千歳・安田・五泉・東蒲・佐渡・荒川・山北・亀田・村上・小須戸。新潟県国際交流協会。宝自動車株式会社。

水原郷消防本部。マニラ会新潟支部。新潟県消防局。新発田・豊栄市・南佐渡・五泉市・岩船各消防本部。フィリピン側 ラグナ州カラワン町長、マラカニアン大統領府報道官、スービック港湾局長、モンテンルパ市々長、同総務局長、ダニロ・タン会長、モンテンルパ市ライオンズクラブ、日航マニラ支店長久保雅信氏、佐川急便フィリピン株式会社松本紀夫氏。

○ 日本側プロジェクトマネージャー 片桐和喜

○ フィリピン側プロジェクトコーディネーター

大澤一郎・関口宗一郎

消防車・救急車、日本からフィリピンへ 簡単な足跡

10月 1日、新潟市役所より横浜に向け出発。
10月 7日、横浜港よりフィリピンに向け船出。
10月18日、スービック港に到着。
11月18日、モンテンルパ市にて引き渡し式。

スービック港到着、陸揚げ作業・確認掌握作業の後、ソニー・カンラス港湾局長の協力を得て、10台の車両は通関及びハンドル切替え等のフィリピン仕様並びにメンテナンス。付属品をセットして贈呈式会場へ



贈呈式、挨拶を述べる大澤一郎氏 引渡し、各地方自治体長確認の署名 ゲストとスタッフ、式典の後で

会費納入者

大澤一郎 氏 2003年1月～6月分まで
 小林慎治 氏 2003年1月～6月分まで
 関口宗一郎氏 2003年1月～6月分まで
 藤堂藤吾 氏 2003年1月～6月分まで
 村山武史 氏 2003年1月～6月分まで
 山口陽一 氏 2003年1月～6月分まで

寄付

会有志より 44330ペソ Dec.21.2002

入会者

ギレルモ・ドモンド氏 次号にて紹介予定
 マリリン・ドモンドさん 次号にて紹介予定
 ジョイ・エリクタ氏 次号にて紹介予定
 マイリン・エリクタさん 次号にて紹介予定

月例会・理事会

1月4日(土) 5:00 pm.から レストラン漁華
 新年の挨拶。ゲスト紹介。副会長として小林氏任命。
 元PNP最高官のゼネラルドモンド氏(現在 Public
 Safety Mutual Benefit Fund. Inc.社長) 夫妻が出席。
 各種事業に協力下さる。夫妻共々会員となられる。

農業技術指導報告会

1月13日(月) 5:00 pm.から レストラン漁華
 新潟県笹神村助役、渡辺氏以下3名の指導員来訪。
 現地における試験農場での使用結果、及び指導報告。

消防車・救急車ドネーション委員会

1月19日(日) 5:00 pm.から レストラン漁華
 片桐和喜氏来訪。税関の査定官マイリン・エリクタ
 さんご夫妻が出席、協力を約束。会員に入会された。

日本大使館からのお知らせ**大使館連絡先**

◇ 在フィリピン日本大使館
 2627 Roxas Boulevard Pasay City, Metro Manila 1300
 TEL (02) 551-5710 FAX (02) 551-5780
 領事部直通回線 TEL 834-7508 FAX 551-5785
 ◇ 在セブ駐在官事務所
 TEL (02) 255-0287 FAX (02) 255-0288
 ◇ 在ダバオ駐在官事務所
 TEL (082) 221-3100 FAX (082) 221-2176

領事手数料

☆ 旅券(新規・切り替え)
 10年旅券 4800ペソ 5年旅券 4000ペソ
 ☆ 旅券(再発給)
 10年旅券 4800ペソ 5年旅券 3200ペソ
 ☆ 証明書
 在留証明書・出生証明書・婚姻証明書 500ペソ
 署名(拇印)証明書 700ペソ
 運転免許証の翻訳証明書 850ペソ
 問い合わせ TEL:551-5710 LOC-1426/1427

在留届けの必要性

海外で生活する日本人が、事件や事故、災害に巻き込まれた場合、在外公館では速やかに日本人の安否を認め、必要な援護を行ないませんが、その際に威力を発揮するのが「在留届け」です。在外公館は在留届けをもとにトラブルに遭った日本人の所在地や緊急連絡先を確認して援護活動にあたります。在留届けは、外国に住所または居所を定めて3ヶ月以上滞在する人達を対象として、その地域を管轄する日本大使館または総領事館にすみやかに提出することが義務づけられています。

パスポートの重要性海外旅行に出かける際「パスポート(旅券)は生命の次に大切なもの」言われます。それは、外国においてはパスポートは単なる”通行証”ではなく日本人であることを証明する”身分証明書”であり”国籍の証明書”だからです。また、万のとき本人に必要な保護と援助を与えるよう、日本政府が各国政府に対して要請している”公文書”でもあります。

事務局からのお知らせ

事務局、エドサ通りLRT駅とヘリテージホテルとの中間、セキュリティバンクの入ったビル Rm.202 Dona Genecrosa Bldg. 282 EDSA Pasay City
 TEL. 851-7328 FAX: 891-7679
 月例会、毎月第1土曜日午後5時から
 ネットワールドホテル、ファンクションルーム。

編集後記

「日比親善同友会」創立1ヶ月。会報創刊号を発刊できる運びとなりました。インタビューに応じて下さった理事さん及び記事に協力頂いた皆様ありがとうございます。当会は既にいくつかの事業を手がけ、成功・進展させており、これに関することでも逐次会報にてご報告いたします。また、フィリピンの方もご入会下さっているのので来月号より一部内容を英訳、合わせて掲載する予定です。

農業技術指導プロジェクト

(新潟県笹神村 → ラグナ市カラワシ町)

上記プロジェクト推進のため、新潟県笹神村より渡辺喜男助役、斉藤剛村議会議員、斉藤孝農協理事が1月10日来訪。空港より直接現地入り、13日まで現状視察並びに会議を行った。当同友会からは大澤会長、小林副会長が参加。現地側はベリス市長始め市会議員、農業関係者が多数出席。今回は昨年に続く2回目の訪問で、先に指導した”もみがら”を主原料とした堆肥製造及び使用状況を視察結果、良質の堆肥が出来ており、試験農場では農作物の品質向上、また土壌改良の効果も見られ、本プロジェクトの第1段階は大成功と認められた。今後は如何にして堆肥の量産体制を整え、有機農法の本格的推進を図るかが課題で、当方・現地側で更に検討を進めることとした。本件の詳細報告は次号に掲載予定。

What is compost?

Compost is a mixture of decayed organic materials decomposed by microorganism in a warm, moist, and aerobic environment, releasing nutrients into readily available forms for plant use.

Why use compost?

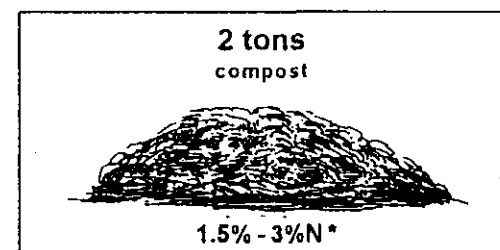
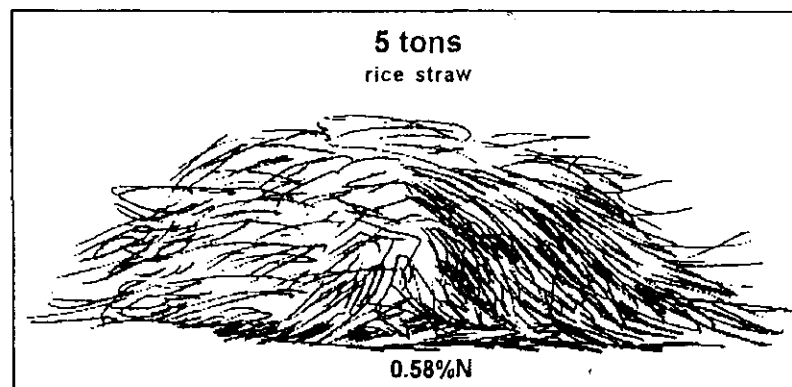
- There is a need for sustainable production through integrated nutrient management
- Compost produces less methane than uncomposted rice straw when incorporated in the soil.
- Solves problem of declining yield.
- Corrects micronutrient problems like zinc deficiency.

Benefits of compost

- Big savings, increased farmer self-reliance
- Increases yields
- Improves soil tilth and structure
- Increases water holding capacity of the soil
- Improves aeration
- Provides humus or organic matter, vitamins, hormones, and plant enzymes which are not supplied by chemical fertilizers.
- Acts as buffer to changes in soil pH
- Kills pathogenic organisms, weeds, and other unwanted seeds when temperatures of over 60°C is reached
- Mature compost quickly comes into equilibrium with the soil
- Different materials can be blended or mixed together which can increase the nutrient content of the compost fertilizer.

Recommended fertilizer rate

The GINTONG ANI program recommends basal application of 6-8 bags inorganic fertilizer and 8 bags organic fertilizer per hectare. By composting all the rice straw after harvest, this requirement is adequately met, and one does not need to buy commercial organic fertilizers.



30 kg N

* enriched with animal manure, nitrogen rich farm residues like legumes, and acted upon by microorganisms like fungus *Trichoderma* sp. and nitrogen fixing bacteria, *Azotobacter* sp.

3 ways of making compost

Traditional Method

This is a slow process, requiring 3-4 months before farm wastes are fully decomposed and ready for use as compost fertilizer. This means that the fertilizer can only be used after one planting season. This also requires a bigger composting area. However, this method involves only eight steps, and it is inexpensive to produce, requiring no extensive inputs except labor.

Rapid Method

With the aid of fungus activator *Trichoderma harzianum*, decomposition of farm wastes is accelerated to just 3-4 weeks! This means that the compost can be used in the next planting season. This involves ten steps.

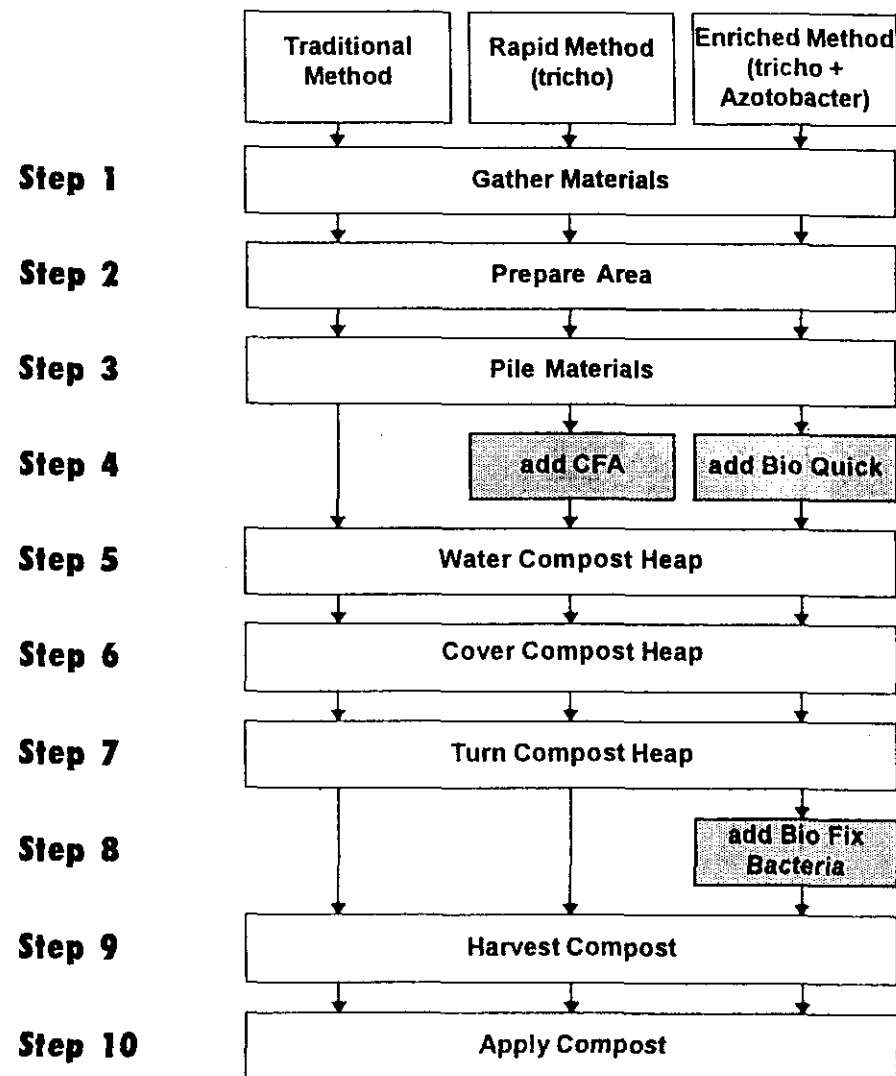
Bio-Enriched Method

Employing both a fungus activator and a nitrogen-fixing bacteria, farm wastes are first decomposed by *Trichoderma sp.* for 2-3 weeks, after which the resulting compost is inoculated with live N-fixing bacteria *Azotobacter sp.* Incubation for 1 week produces a nitrogen-enriched compost that can supply a rice crop's total N requirement, depending on the material used, soil condition, and planting season. This involves 10 steps.

NOTE: For the Rapid and Bio-Enriched Methods of composting, procedures in preparing these microorganism activators are available at the Institute of Biological Sciences (IBS) and the National Institute of Molecular Biology and Biotechnology (BIOTECH) of the University of the Philippines Los Banos (UPLB), College, Laguna; and the Department of Science and Technology (DOST).

Simplified guide to compost production

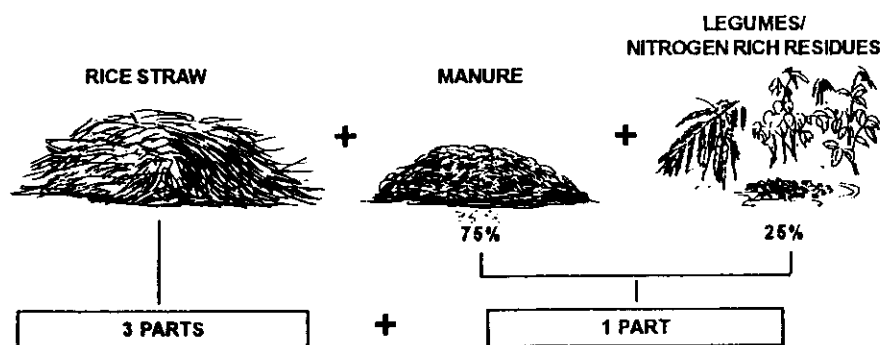
Most of the steps are common to the three methods of composting. Step 4 or the addition of fungus activator, however, does not apply to the traditional method. Step 8 or the addition of bacteria inocula, on the other hand, applies only to the Bio-Enriched method of composting.



Step 1. Gather materials

Gather rice straw, weeds, sugarcane bagasse, corn stalks and stovers, leguminous materials such as ipil-ipil, azolla, sesbania, mungbean, cowpea, soybean crop residues, and animal manure. Soak rice straws for 6-12 hours before piling. Chop materials for easier decomposition.

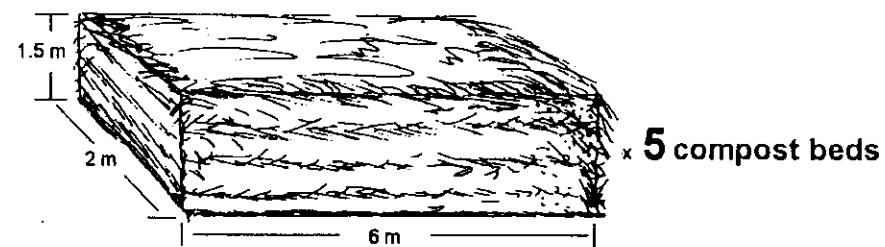
Ideal proportion of composting materials is 3 parts rice straw and 1 part mixture of animal manure and leguminous plant residues. Less than this proportion prolongs the decomposition process.



Step 2. Prepare compost area

Choose a shaded and well-drained area.

To compost 5 tons of rice straw, we need a volume of 90 m^3 . A plot size of $2 \text{ m} \times 6 \text{ m} \times 1.5 \text{ m}$ can accommodate 1 ton of rice straw. Make 5 plots. If you want smaller plots, a plot size of $2 \text{ m} \times 3 \text{ m} \times 1.5 \text{ m}$ can accommodate 500 kg of rice straw materials. Make 10 small plots to be able to compost 5 tons rice straw.



or



Step 3. Pile materials

Traditional Method

Make six layers of compost materials, each layer about 25 cm thick. A layer of compost material consists of three parts rice straw, one part manure, soil, and ash or lime spread on top of each other.

Stack the layers until the compost heap reaches 1.5 m high. Insert several perforated bamboo poles into compost bed to serve as breathers.

Rapid Method

(*Trichoderma*)

To provide aeration at the bottom, construct platform or use available materials such as coconut leaf midribs, kakawate, banana trunk, and bamboo.

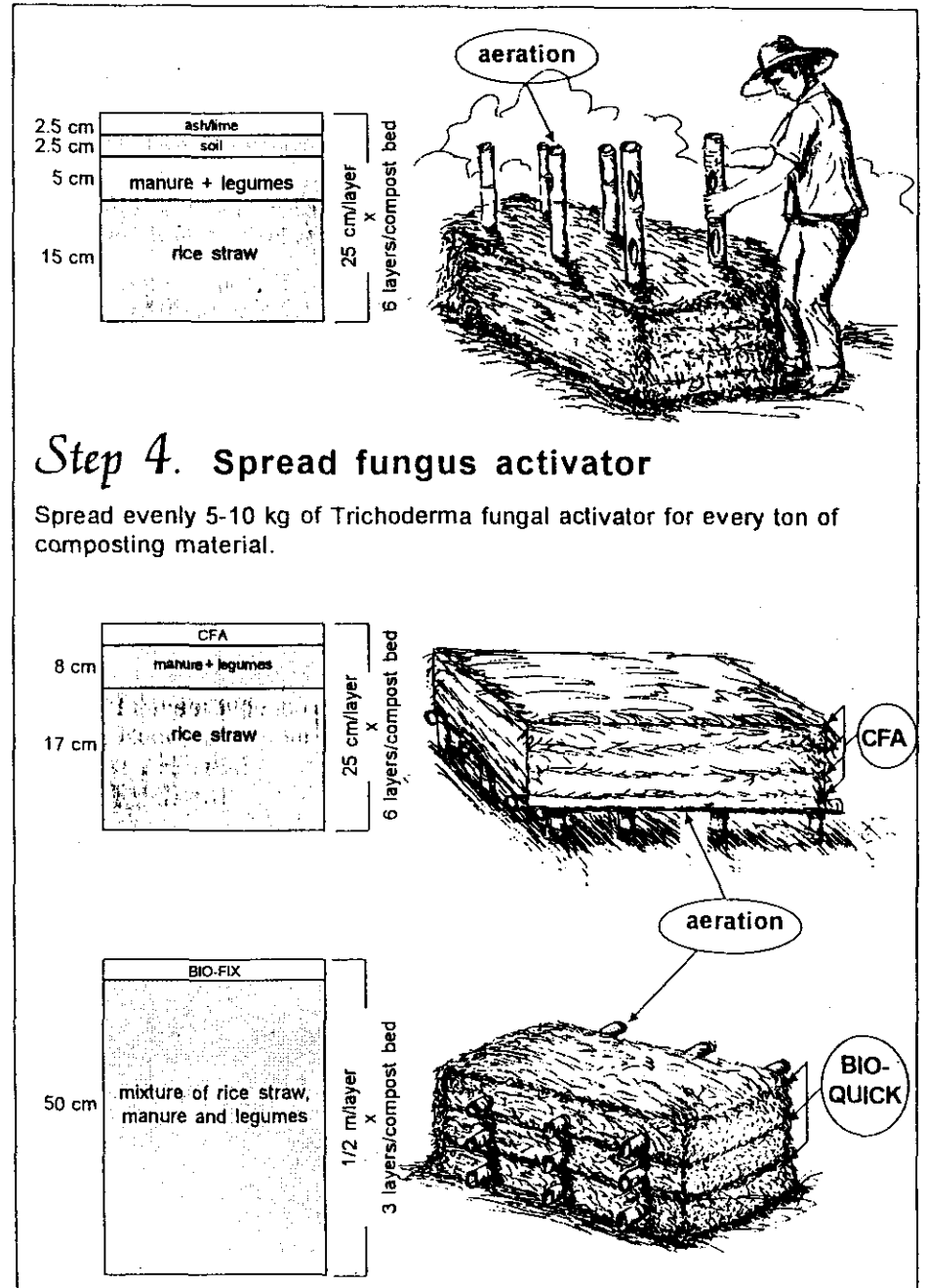
Make six layers of compost materials, each layer about 25 cm thick. A layer of compost material consists of three parts rice straw, one part mixture of animal manure and leguminous materials, and a thin layer of fungus activator, known as Compost Fungal Activator (CFA). There is no need to put ash/lime or bamboo breathers.

Bio-Enriched Method

(*Trichoderma* and *Azotobacter*)

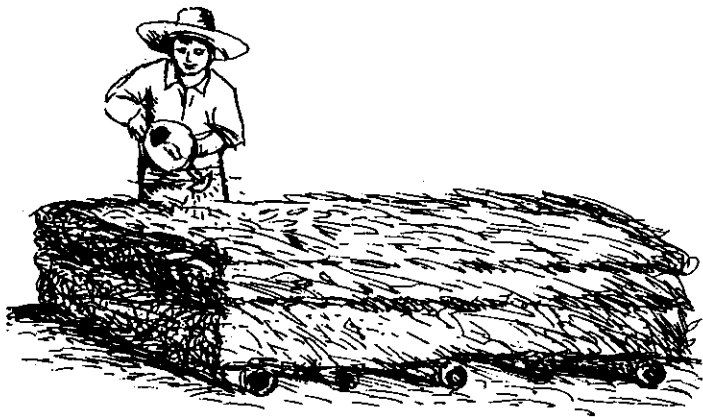
Mix all the rice straw, animal manure, and leguminous materials into 3:1 proportion.

Apply 2.5 kg of the fungus activator, known as BIO-QUICK, for every ton of composting material. Spread evenly on top of the first layer. Place 2-3 perforated bamboo poles horizontally across the first layer before adding the next layer. Make three layers.



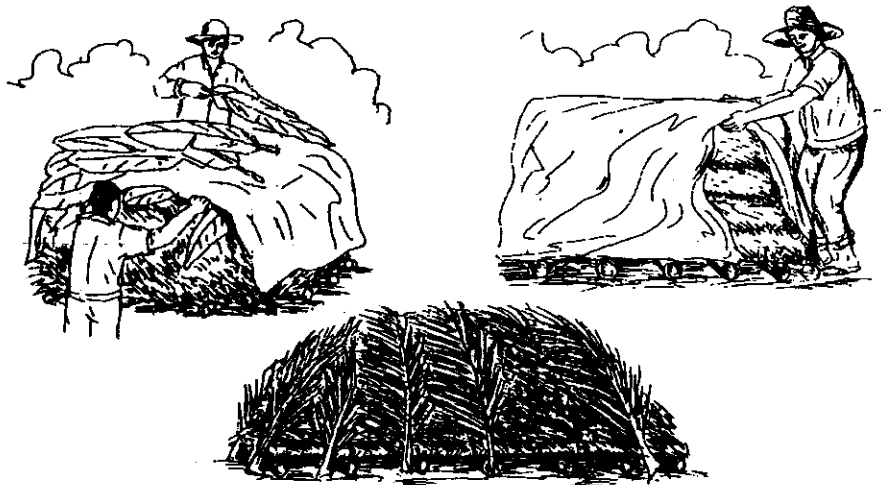
Step 5. Water compost heap

Water each layer of compost heap until it is sufficiently moist.



Step 6. Cover compost heap

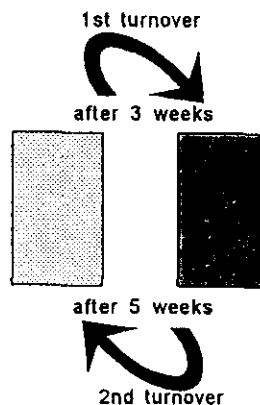
Cover with plastic sheet, used sacks, banana and coconut leaves to increase temperature and prevent too much water into the compost heap which could leach the nutrients.



Step 7. Turn compost heap

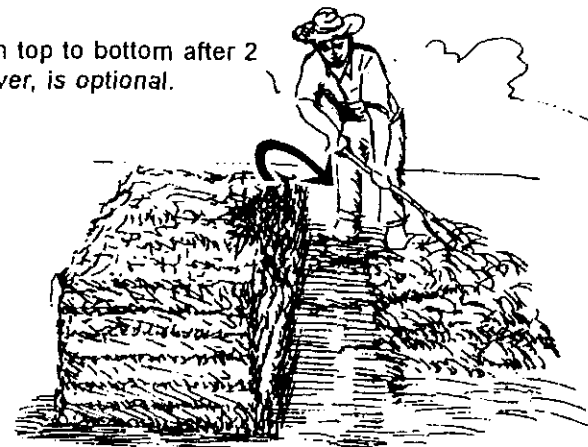
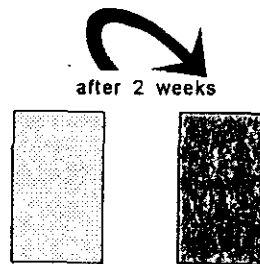
Traditional Method

Turn or mix compost heap after 3 weeks, then again after 5 weeks.



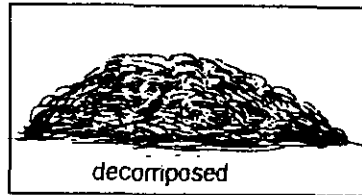
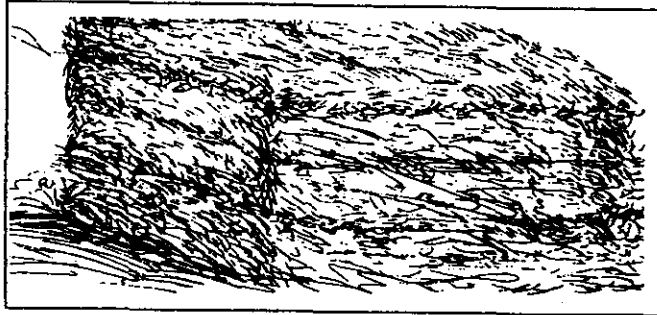
Rapid Method (Trichoderma)

Turn compost heap from top to bottom after 2 weeks. This step, however, is optional.



Bio-Enriched Method (*Trichoderma* and *Azotobacter*)

Remove cover after 2-3 weeks or when the compost heap has decomposed. Separate undecomposed materials for further composting.



Step 8. Add bacteria inoculum

Spread evenly on top of each compost layer 2.5 kg of bacteria inocula, known as BIO-FIX, for every ton of compost material and incubate for 1 week. Cover the compost heap but do not allow to dry.



Step 9. Harvest compost

Traditional Method

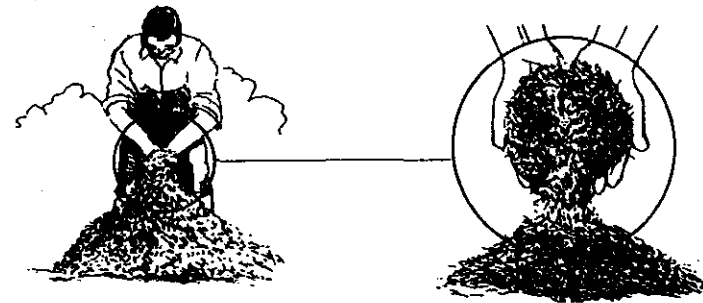
Harvest 4 weeks after the second turnover of the compost heap. The N content of the compost is now 1.5%. Use 2 tons of compost per hectare.

Rapid Method (*Trichoderma*)

Harvest 1-2 weeks after turning over the compost heap. The N content of the ripe compost varies from 1.0% - 3.0% depending on the amount of manure and nitrogenous plant materials used as substrates. Use all the compost produced in the field which could be about 2.0 tons per ha. If commercial organic fertilizer produced through the rapid composting method is used, mix 8-10 bags per ha.

Bio-Enriched Method (*Trichoderma* and *Azotobacter*)

After 1 week of incubation of the bacteria inocula, the compost is ready for use. N content of the compost ranges from 1.5% to 3%. You need only apply 250-500 kg or 5-10 bags compost per hectare. Presence of live N-fixing bacteria in the compost will boost total N in the soil.

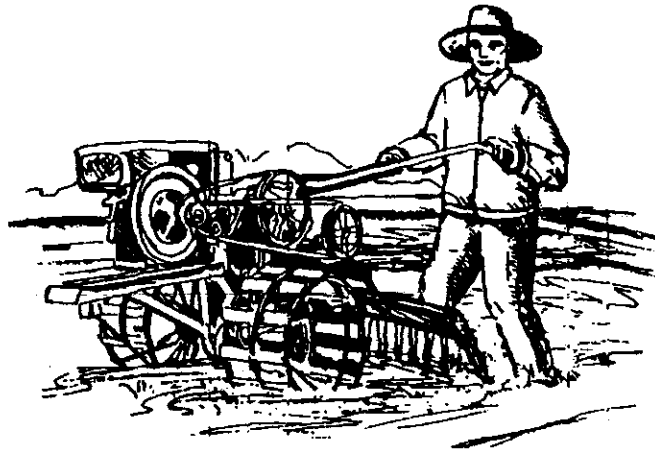


There are currently 36 Mass Production Centers (MPC) for fungal activators and 17 Compost Production Centers (CPC) accredited by the Department of Science and Technology (DOST) to make these activators available to farmers. These centers include government, nongovernment organizations, and cooperatives. There are 15 similar agencies producing both fungal activators and ready-to-use compost (see Annex 3).

BIOTECH and IBS also provide training for cooperatives and entrepreneurs who wish to go into commercial organic fertilizer and mass production of these microorganisms.

Step 10. Apply compost

Broadcast compost as basal fertilizer before final harrowing during land preparation.



Health precautions

1. The decomposing compost heap can generate heat up to 60° celsius. Be careful in handling the compost while turning. Wear protective gloves or foot gear so as not to scald your hands and feet.
2. Composting materials and microorganisms may cause allergies, although they are nonpathogenic. To avoid inconvenience from itching, cover nose and mouth with mask; use long-sleeved clothes, and wash body and hands after working on the compost.

Acknowledgment

Dr. Virginia C. Cuevas of the Institute of Biological Sciences (IBS), University of the Philippines Los Banos (UPLB), for developing the Compost Fungal Activator (CFA) technology.

Dr. Bayani Espiritu of the National Institute of Molecular Biology and Biotechnology (BIOTECH), University of the Philippines Los Banos (UPLB), for developing the BIO-ENRICHED compost technology, employing the use of a fungal activator BIO-QUICK and an N-fixing bacteria inocula, BIO-FIX.

Fertilizer and Pesticide Authority, Department of Agriculture.

This bulletin was prepared at the Philippine Rice Research Institute (PhilRice) by Dr. Teodula M. Corton, subject matter specialist, Mr. Paterno Rebuelta, soils specialist, and Dr. Santiago R. Obien, technical adviser; technology synthesis and visualization by Roger F. Barroga; illustrations by Carlito Bibal; and layout by Carlo Dacumos.

References

- Bureau of Soils and Water Management. 1994. Tricho for faster composting. Diliman, Quezon City.
- Cuevas, V.C. 1988. Make Your Own Compost. Techguide series no. 11. UPLB, TLRC. National Book store. Manila.
- _____. 1991. Rapid Composting for Intensive Riceland Use. Innovations for Rural Development. 1(1):5-10. SEARCA-SEAMEO.
- _____. 1991. Rapid composting of rice straws in irrigated paddies. IBS, UPLB, College, Laguna.
- _____. 1993. Rapid composting fits rice farmers. ILEIA Newsletter. v 9 no 2:11-12.
- _____. SN. Samukde and P.G. Pajaro. 1988. *Trichoderma harzianum* Rifai as Activator for Rapid Composting of Agricultural Wastes. The Phil. Agric. 71:(4) 461-469.
- Espiritu, B. 1992. Bio-organic fertilizers (BOF): enhancing the value of farm wastes through microbial inoculation. Discussion paper presented at the STARRDEC 1992 R&D Regional Symposium and Planning Workshop, May 21-22. Don Severino Agricultural College, Indang, Cavite.
- _____. 1994. Bio-organic fertilizers: quality enhancement of organic fertilizers through composting and inoculation with nitrogen-fixing bacteria. Paper presented in the Investor's Forum, PTTC.
- _____. 1996. Use of processed inoculated composts in rice production. Paper presented at the 2nd PhilRice-IRRI-UPLB Tripartite Workplan Meeting. IPB, College, Laguna.
- _____. Undated. Biotechnological aspects for upgrading of organic fertilizers. Unpublished paper.
- _____. *et al.* Undated. Bio-organic fertilizer processing. Unpublished paper.
- _____. and M.Tamio. 1993. Maramihang paggawa ng bio-organikong pataba. BIOTECH, UPLB, College, Laguna.
- Fertilizer and Pesticide Authority. Undated. Organic fertilizers: production and use. Agricultural Information Division, Department of Agriculture, Diliman, Quezon City.
- Obien, S. *et al.* 1995. Recent trends in researches on organic fertilizer use in paddy rice. Paper presented at the National Symposium/Workshop on Organic Fertilizer Use in Paddy Rice, Feb. 29 - Mar. 1. PhilRice, Munoz, Nueva Ecija.
- PCARRD. 1994. Establishment of a compost production unit. PCARRD Information Bulletin No. 43. Los Banos, Laguna.

ANNEX 1

Nutrient content of farm residues and animal manure

Average elemental NPK composition of some crop residues, green and animal manures as compost materials (Misra and Hesse, 1983 as cited by Cosico 1985).

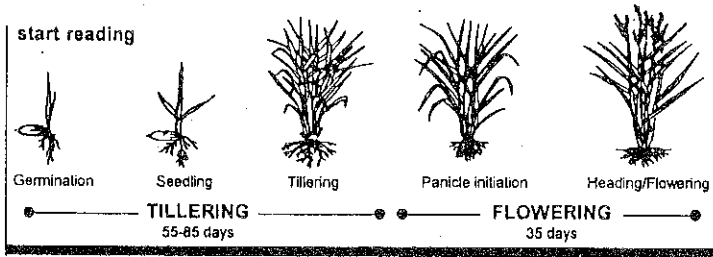
Material	C/N	% OVENDRY BASIS		
		N	P	K
Rice straw	105	0.58	0.10	1.38
Wheat straw	105	0.49	0.11	1.06
Corn stover	55	0.59	0.31	1.31
Soybean stover	32	1.3	-	-
Cotton stalk & leaf	-	0.88	0.15	1.45
Peanut straw	19	0.59	-	-
Peanut hull	-	1.75	0.20	1.24
Cowpea stem	-	1.07	1.14	2.54
Sugarcane trash	116	0.35	0.04	0.50
Cabbage	12	3.6	-	-
Tobacco	13	3.0	-	-
Green Manure				
Sesbania aculeata	-	2.18	-	-
Sesbania speciosa	18	2.51	-	-
Vigna sinensis (Cowpea)	-	3.09	-	-
Melilotus indica	-	3.36	0.22	1.27
Pisum sativum (pea)	-	1.97	-	-
Acacia ferruginea leaf	-	2.96	0.13	0.88
Acacia arabica leaf	-	2.61	0.17	1.20
Desmodium trifolium	-	2.93	0.14	1.30
Calopogonium mucunoides	-	3.02	-	-
Water hyacinth	18	2.04	0.37	3.40
Azolla	-	3.68	0.20	0.15
Algae	-	2.47	0.12	0.37
Animal Manure				
Cattle	19	1.50	1.00	0.94
Sheep	29	2.02	1.75	1.94
Horse	24	1.59	1.65	0.65
Pig	13	2.81	1.61	1.52
Chicken	-	4.00	1.98	2.32
Duck	-	2.15	1.13	1.15
Human	8	7.24	1.72	2.41

Basal P and K, and Zn as broadcast

During the final land preparation, incorporate at least 40 kg/ha phosphorous (3½ bags of solophos or 0-18-0) and 30 kg potassium (1 bag muriate of potash 0-0-60). Two weeks after transplanting or direct seeding, broadcast 20 kg zinc sulfate per hectare when discoloration of the older leaves is observed.

When to take first reading

Starting at 14 days after transplanting until the flowering stage, begin to take weekly readings and apply the needed nitrogen fertilizer. This will require 8-9 weekly readings depending on the maturity date of the variety used. For direct seeded rice, start taking readings 21 days after sowing. Weekly visit to the field allows the farmer to closely observe the crop's response to fertilization.

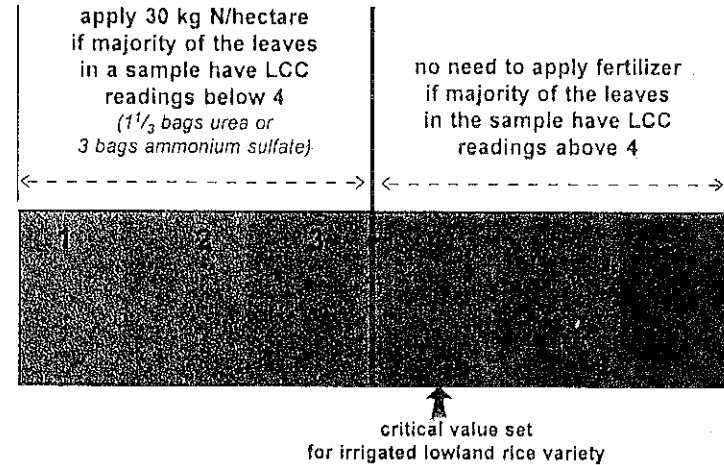


How to Use the LCC

Compare the color of the topmost fully expanded and healthy leaf of a representative rice plant with the LCC.



The LCC comes with six color gradients, starting with yellowish green (1) representing the lowest N concentration, and dark green (6) or highest N concentration. The critical value set for irrigated lowland rice variety is 4.



Take readings between 8-10 am when there is not much glare from the sun. Avoid taking readings very early in the morning since dew drops can make reading difficult.

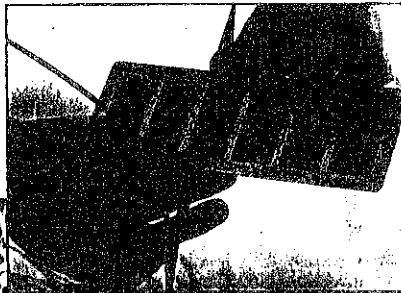


Homogenous Plots

(Fairly level area with uniform crop growth)

Measure the topmost fully expanded healthy leaves of 10 plants from a plot or hectare if the area is homogeneous. If 5 or more of the leaves have LCC readings below 4, apply 30 kg N/ha. This is equivalent to 1 1/3 bags of urea or 3 bags ammonium sulfate.

PLOT 1
Measure the first fully expanded leaf of the tallest tiller.

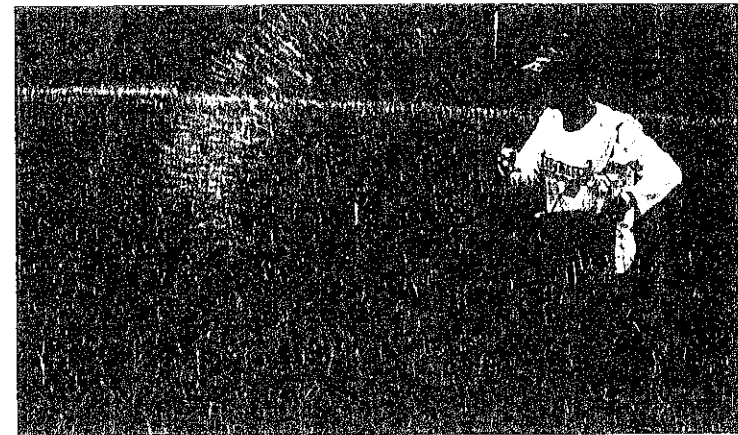


1 Hectare

Sample Readings from Homogenous Plots

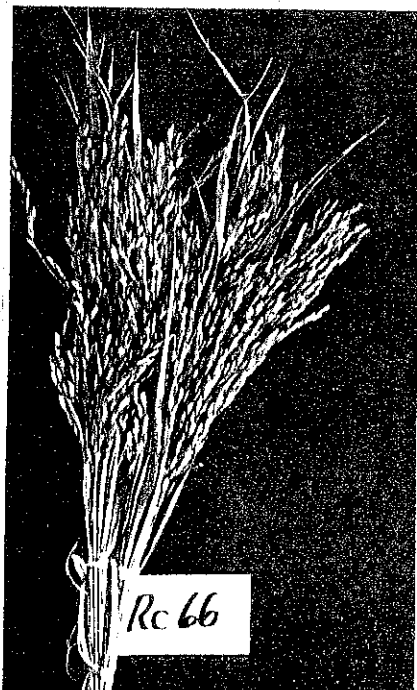
Rule: If 5 or more of the leaves have LCC readings below 4, apply 30 kg N

LCC Reading				
Frequency of leaves per LCC reading	<table border="1"> <tr> <td>II</td> <td>III</td> <td>III</td> </tr> </table>	II	III	III
II	III	III		
Decision:	<p>Apply N fertilizer Since 7 leaves have LCC readings below 4, apply 30 kg N/ha</p>			



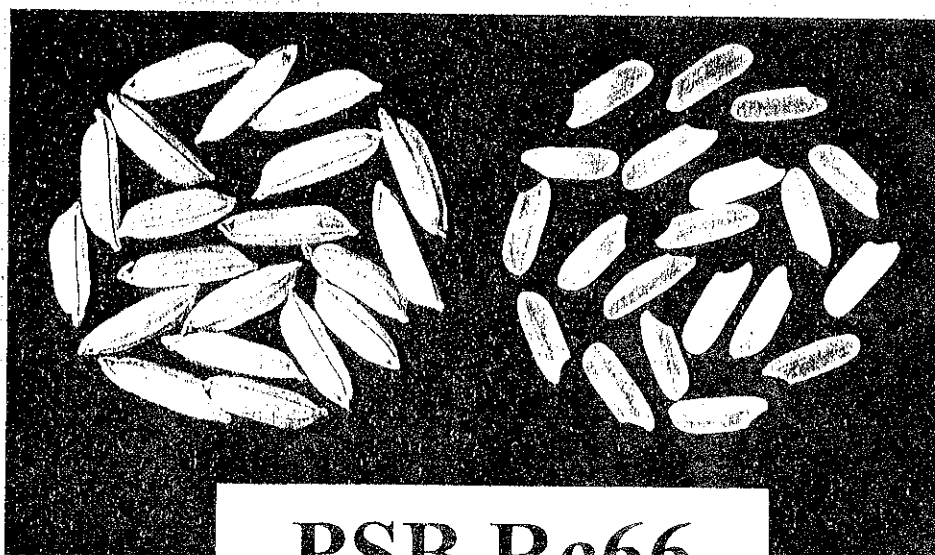
Irrigated Lowland

Agusan



PSB Rc66

- Performs best during the dry season
- Resistant to bacterial leaf blight
- High milling recovery



VARIETAL CHARACTERISTICS

PSB Rc 66

BACKGROUND		
Pedigree Number	:	PR23426-66
Parents	:	MRC19941-2306/ IR42068-2-2-3-3-1-3
Year Approved	:	1997
YIELD (kg/ha)		
Phase I		
Dry Season	:	5112
Wet Season	:	5269
Phase II		
Dry Season	:	5324
Wet Season	:	4781
MATURITY (DAS)		
Dry Season	:	120
Wet Season	:	125
PLANT HEIGHT (cm)		
Dry Season	:	85
Wet Season	:	95
PRODUCTIVE TILLERS (no/hill)		
Dry Season	:	17
Wet Season	:	16
REACTIONS TO:		
<i>DISEASES</i>		
Blast	:	4.75 Intermediate
Bacterial leaf blight	:	3.02 Resistant
Sheath blight	:	5.96 Intermediate
Tungro		
Modified	:	20.74 Resistant
Induced	:	57.58 Susceptible
<i>INSECT PESTS</i>		
Deadhearts (SB)	:	-
Whiteheads (SB)	:	53.53 Moderately Susceptible
Green leafhopper	:	6.00 Intermediate
Yellow stemborer	:	5.00 Intermediate
Brown Planthopper 1	:	6.00 Intermediate
Brown Planthopper 2	:	5.00 Intermediate
Brown Planthopper 3	:	6.00 Intermediate
GRAIN QUALITY		
Brown rice recovery (%)	:	78.5 Fair
Milling recovery (%)	:	69.3 Grade 1
Head rice recovery (%)	:	36.2 Grade 3
Amylose content (%)	:	28.0 High
Protein (%)	:	6.1

